

北海道ブロッククラブネットワークアクション 2016 開催報告

日 時： [第 1 日目] 平成 28 年 10 月 29 日（土） 13:00～17:00

[第 2 日目] 平成 28 年 10 月 30 日（日） 09:00～12:00

会 場：北海道立総合体育センター（北海道札幌市）

内 容：テーマ『総合型クラブの社会性から地域課題を考える』

- 共通プログラム「地域スポーツクラブへの障がい者スポーツの導入」
- プログラム①「地域包括支援とスポーツクラブ」講演・事例発表
- プログラム②「地域課題解決に向けて～現場からの実践報告～」事例発表
- プログラム③「私のクラブ自慢」事例発表
- 日本体育協会からの情報提供

【概要】

【地域スポーツクラブへの障がい者スポーツの導入】

平成 28 年度から日本体育協会共通プログラムとして全 9 ブロックで同様の内容を実施することとなった本プログラムについては、日本障がい者スポーツ協会の滝澤幸孝氏が「障がい者スポーツに関する基礎的情報提供」を行い、NPO 法人高津総合型スポーツクラブ SELF の戸沼智貴氏が実践例の紹介を行いました。

障がい者スポーツの基礎的な知識や情報をもとに地域における連携機関や関係団体、指導者資格と指導におけるポイントについてもご教示いただきました。これまで地域に障がいのいる方がいることは分かっているにもかかわらずクラブとして取り組むためにはどのような情報を得る必要があるのか等、まず情報を集めるきっかけになりました。

また、実際の事例発表からは、クラブの現場において、どのように障がい者スポーツを捉えるか、隔たりを無くして、健常者も障がい者も共存した地域社会「オープン・エア」を創っていくにはどうしたらよいか等、具体的な現場をイメージしながら学ぶことができました。

多くの参加者が大変興味を持ったプログラムであり、実際に初級障がい者スポーツ指導員講習会に参加した方もいたようです。



滝澤幸孝氏



戸沼智貴氏



【地域包括支援とスポーツクラブ】



「スポーツは万能の予防薬である」
小海康夫 氏

プログラム①は、高齢化社会にあって今後ますます重要になる認知症予防、介護予防などのケアについて、総合型クラブに何が
できるか、何をすべきなのかを考えようと「地域包括支援」に焦
点を当てて開き、札幌医科大学教授でNPO法人留萌コホートピ
ア理事長の小海康夫氏からご講演いただきました。

小海氏は、運動器の障害で移動能力に低下をきたし、要介護に
なったり、要介護になる危険性の高い状態となる「ロコモティブ
シンドローム」（運動器症候群）について解説。予防策として運
動習慣の重要性を強調。総合型クラブが地域包括支援に積極的
にかかわることにエールを送ってくれました。

運動習慣については①肥満予防②転倒予防③認知症予防などを例に、運動することで「第2の心臓と
言われる静脈還流に役立ち、糖を消費し、体温を保持できる」。また、身体を使わないことであらゆる
機能が衰える廃用症候群の予防では「若い時からの貯筋が大事」と説明。

さらに「転倒予防は運動と生活習慣の改善が重要」「認知症発症の危険度は運動をしている人の方が
していない人より低い」などとし、「スポーツは万能の予防薬。老いるショックを吹き飛ばせ」と受講
したクラブ関係者呼びかけました。

次に、クラブの活動として、介護予防事業に取り組む一般社団法人 N・Link.（沼田町）の森田弘美氏
と障がい者を対象とした活動に取り組むNPO法人あばしりスポーツクラブ（網走市）の大嶋浩氏から
実際の取組について発表していただきました。

クラブが地域の中で様々な団体と良好な連携を図る繋ぎ手になることで、スポーツに関わる事業だけ
でなく、保健福祉課や社会福祉協議会、地区サロン運営者（町内会・老人クラブ）と一緒に高齢者の健
康づくり・体力づくりに関する事業に取り組むことができることの事例が紹介されました。

また、運動している子どもだけでなく、したくても参加できない子どもに目を向けると、そこにはク
ラブが少し協力するだけで素敵な運動プログラムが提供できる事例もあり、地域で現実に起きているこ
とと向き合い「クラブとしてできること、クラブだからできることは何か」を考える機会となりました。

お二人とも、自分だけでなく、背中を押してくれる仲間やいざというときに助けてくれる繋がりが地
域にあるからこそ実現できるとおっしゃっていました。発表のなかで、森田氏が介護予防事業で取り入
れている運動実技（脳トレ）を参加者全員で行い、優しい雰囲気を体験することができました。



大嶋 浩氏



森田弘美氏



脳トレにチャレンジ！

【地域課題解決に向けて～現場からの実践報告～】

プログラム②では、「地域課題」に焦点をあて、北海道内でもクラブ運営歴の長い多寄スポーツクラブと風連スポーツクラブ・ポポに、地域の課題解決に向けた取組を発表していただきました。

多寄SCの谷寿彰氏と風連SCの熊谷守氏の発表からは、地域課題として無視することのできない「人口減少・高齢化・独居世帯の増加」がクローズアップされました。

そこで、そうした状況だからこそ地域住民が一带となって役割を担うことの必要性や、農家と非農家、自治会別、世代別など、各コミュニティをうまく混ぜ合わせた地域行事に取り組むことで横断的な人のつながり、交流を深める機会をクラブが創っていることで間接的に地域課題に対しても解決の一助になっていること等、具体的な実践例を聞くことができ、改めて地域課題をクラブとして把握する必要性やその課題の解決過程における地域住民との関わりが重要であることを学ぶことができました。



谷 寿彰氏



熊谷 守氏

【私のクラブ自慢】

プログラム③では、設立5年以内のクラブマネジャー5名に、クラブの特徴や事業プログラムについて「自慢話」も交え発表していただきました。設立準備期間よりも実際には設立後の「育てる」クラブ運営のほうが苦勞も多いようですが、地域から必要とされるクラブを目指し、努力している様子でした。

＜発表クラブ＞

- ① ポリティファイン 土井信博氏
- ② むかわスポーツクラブ「むーブ」 榎哲夫氏
- ③ NPOなかしべつスポーツアカデミー 澤野功氏
- ④ よいち総合型地域スポーツクラブ 茅野英昭氏
- ⑤ 札幌オールカマーススポーツ倶楽部 佐藤司氏

【まとめ】 キーワードは「地域密着」

2日間を通じ、総合型クラブが地域の課題解決に関わることは十分可能であると確信しました。行政に事業提案できるテーマとして「地域包括ケア」と「障がい者スポーツ」は有効ですが、各クラブそれぞれが地域特性や環境を生かした取り組みに果敢にアプローチしていただきたいと強く感じました。

実行委員長 伊端隆康



クラブネットワークアクションに参加した北海道の仲間たち